

「伊賀市夢のある農業振興計画」に関する意見ヒアリング 一覧

●地域計画の策定に関することまたは農業振興地域整備計画の見直しに係る説明会などにおいて、参加者に対し農林振興課職員が意見聴取

No.	月日	場所	参加者人数等	意見概要
1	令和7年6月19日(木)	上之庄公民館	16	●機械が高い。買っても年に10日間程度の使用である。 ●昨日、小泉農水大臣が、機械のリースについて話していた。JAや行政がリースの方向付けをしてもらえれば。 ●認定農業者の認定過程を簡素化してほしい。国にも言ってほしい。 ●地域計画を作成して、担い手が得になるようなことはあるのか。
2	令和7年6月26日(木)	花之木地区市民センター	18	●国の方針として農地の集約化となっているが、大規模な農地で農業を行うための農機具の価格が高く、購入が困難である。 ●農業を実施、継続していくには、設備投資がボトルネックとなっている。補助金を受給する対象となることも難しい。 ●伊賀市にとって夢のある農業振興計画となるためには、その前提として農業従事者にとって夢のある計画にしてもらう必要がある。 ●農業従事者にとって夢のある施策を打ち出してほしい。また国にも要求してほしい。
3	令和7年7月7日(月)	長田地区市民センター	上野遊水地区連絡協議会委員 約20名	Q.遊水地（小田）にもシカがおり、野菜等が被害にあっている。堤防にフェンスの設置はしてもらえないのか？ A.全面は相当な費用がかかる。意見として持ち帰る。 意見）農地を国有地になるのは反対。農業を維持するために国交省の事業としてほ場整備なども検討いただきたい。 Q.遊水地内に電柵の設置は可能か？ A.工作物は原則不可であるが、電柵までの明記はない。しかしながら設置した柵が台風で流れたとしても国は何もできない。 Q.事前放流はできるのか？ A.していない。関係機関との調整が必要。 意見）他の遊水地では田が1枚あたり1haあり、若い人が移住するなどして大型機械で農業をしている。こういうことは必要。 ●鳥獣害について市単で補助があることや有害鳥獣捕獲について説明。また地域計画の必要性を伝え将来の担い手についても話し合いが必要であることを説明した。最後に「伊賀市夢のある農業振興計画」についても概要説明し、意見を求めた。※この場では特に意見なし
4	令和7年7月10日(木)	鳳凰寺公民館	区長及び組長 計8人	●鹿が増えている。対策等は何かしてくれるのか。 →ご意見は策定委員会に報告する。 ●鹿が来ないように、竹に白い布をつけたものを出後で立てている。効果はあるのか？ →担当に確認しておく（確認した結果、あまり効果はないのではとのこと） ●熊の情報は適宜適切に教えてほしい。 →県及び市の関係部局や警察と協議しながら情報を精査して提供したい。 ●米が不足しているが、今年の秋に収穫したら暴落するのではと心配している。余剰米を買い取る制度などはあるのか。 →買い取る制度はない。備蓄米に回るのであろうが、価格は安い。農家の手取りと店頭価格のバランスが悪い。令和7年産よりも令和8年産が心配。
5	令和7年7月26日(土)	西条公民館	農地所有者及び担い手 計28名	●多面的機能支払制度を西条は活用している。書類は難しいが、良いシステムであると思う。地域に入る金額が大きい。 ●米の金額が上がると叩かれるのはおかしい。 ●儲からなかったら意味がない。 ●今所有している農地を耕作する人がいないため、土地をどうするかという問題がある。また、今は担い手が地域にいてくれるので預けているが、担い手がいなくなったらどうするのかという問題もある。そのような問題を解決できるシステムがあればいいのに。 ●保水や山崩れの対策なども農業に関係していると思う。 ●林業についても問題が多いのでは。荒れ放題で大雨になると木が川に流れてくることも。そのうち橋が壊れる可能性も。

No.	月日	場所	参加者人数等	意見概要
6	令和7年9月12日(金)	阿波地区市民センター	住民自治協議会役員及び各地区自治会長 約20名	●アカマイで困っている。色彩選別機でも取り除けない。売ることさえできない。アカマイを防ぐ研究をお願いしたい。 ●後継ぎがない。深刻な問題。 ●大山田ファームへの委託が増えているが、植え付けがされていない。草刈りもしていない。委託するものの大山田ファームによる農地の管理が不十分。ファームへの支援はないのか。
7	令和7年9月12日(金)	布引地区市民センター	住民自治協議会役員及び各地区自治会長 約15名	●担い手不足が深刻。5年度には耕作放棄地ばかりになる。 ●獣害対策に対する予算を増額してほしい。 ●水路補修が不十分など、米を作りたくても作れない面もある。環境整備が必要。 ●獣害対策をしたほ場が耕作放棄地となった場合、柵の中にシカなどが入り込んで住み着いてしまう。柵があるので対応できない。
8	令和7年9月12日(金)	山田地区市民センター	住民自治協議会役員及び各地区自治会長 約13名	●今後、より高齢化、担い手不足が懸念される。 ●兼業農家を見捨てないでほしい。 ●機械が高騰し、壊れたら離農するという声が多いことからリース制度を検討されたい。
9	令和7年9月18日(木)	阿保複合施設	住民自治協議会役員及び市民センター長ほか 11名	●例えば）米の価格（単位までは不明）を5万円にする。 ●農業の将来に「夢」はあるのか。 ●農業機械が高額。 ●獣害対策の強化。